

学校統廃合と小中一貫教育を考える学習会
学校統廃合と義務教育学校の
今日の状況
講演：山本由美（和光大学教授）
10月29日(土)13:30～ たかつガーデン

泉北教育

NO.2055 2016.10. 17.
発行 泉北教職員組合
〒594-0071 和泉市府中町6-12-2
TEL.0725-41-1953 Fax0725-44-6570
E-mail senboku@gf6.so-net.ne.jp

チャレンジテスト 教育・文化府民会議 廃止・撤回を求める署名を提起



教育をゆがめる中学生「チャレンジテスト」を廃止・撤回させようと、10日、「なくせ! チャレンジテスト」府民学習会（「子どもと教育・文化を守る大阪府民会議」主催）が開かれ、会場いっぱい177人が参加しました。チャレンジテストの廃止・撤回を求め宣伝、学習会、署名などが提起されました。

学習会ではチャレンジテストの主な問題点を下記のように説明されました。

府民の声でチャレンジテスト廃止を

中3チャレンジテスト テスト結果で各中学校を格差づけ

中学3年生では、6月23日に実施されたテストの結果を用い、各中学校の調査書評価平均が決定されます。昨年度の例では、評価平均が上位の中学校で「3.7」、下位の学校では「2.2」と

いう学校もあり、調査書の評価平均の差が大きく開いています。このように、通っている中学校によって調査書の評価に差がつくようでは、高校入試がきわめて不公平になります。

中1・2チャレンジテスト 1回のテストで内申書の意味をなくす

中学1・2年生では、たった1回のチャレンジテストの結果で、府教委作成の「評価の範囲」により、評価の変更が余儀なくされます。各学校が責任をもってつけた絶対評価の評価が否定され、子ども・保護者に説明できなくなります。この間、府教委は生徒の学習意欲を高め、個人

の努力が反映されるように、絶対評価の徹底をすすめて、入試の調査書にも導入しましたが、府教委自らこれを全く否定することとなります。さらに、生徒の学校における努力や頑張りが反映されないのであれば、内申書の意味がなくなります。

中学1年生から入試にかりたて教育ゆがめる

チャレンジテストによって実質上、調査書の評価が決定されることになれば、チャレンジテストが入試と同様の重みをもつことになり、入試が前倒しされることとなります。人間形成

の場である学校が、これでは、テスト中心の学校となり、子どもたちを中学1年から過度の競争に駆り立て、本来あるべき中学校教育の姿が大きくゆがめられます。

廃止しかない！ 中学生チャレンジテスト